

【エッセイ】 私は、ライフデザイン科セラピーコースというコースに所属しています。セラピーコースは、園芸福祉という、植物を使って交流活動をしていく、というようなコースです。私の学校には、特別支援学校の分校があり、セラピーコースに進んでからは、何度か分校の生徒の皆さんと交流活動をしてきました。他にも、特別支援学校の生徒の皆さんとも交流活動をして、感じたことがあります。

まず一つ目は、障がいがあっても、心は私達と同じようにごく普通の高校生だということです。

特別支援学校の生徒の皆さんとの交流の時に交流したのは、足が悪くて、車イスに乗っている男女の双子でした。私の班には、女の子の方が来ました。自己紹介をする時には、周りの興味を引くような内容で自己紹介をしていたし、恥ずかしいなあと言いながらも、大人数の前で大きな声で堂々としていて、私よりも全然すごいし、私もこの子みたいに、緊張していても、堂々と皆の前で話せるようになりたいなと思いました。そして、自己紹介の時にジャニーズのメンバーが好きだと言っていたので、そのことについて質問してみると、楽しそうに笑顔でそのことについて話してくれて、「なんだ、私達と同じごく普通の女子高生じゃん。」と思いました。障がいがあっても、皆が皆、話したり、言ったことを理解できない訳ではないから、障がい者だからというだけで差別されたりしてしまうのは本当に怖いことだなと感じました。皆にしっかり心があるということを理解してもらいたいです。

二つ目は、相手のペースに合わせることが大切だということです。同じ障がいがある人でも、苦手なこと、得意なことは違うし、性格も人それぞれです。分校の生徒の皆さんとの交流活動で自己紹介をしているときに少し時間が余ってしまって、他の班が名前を覚えてもらえているか問題を出して盛り上がっていたので、私の班でもやってみると、私の班の子は困ってしまい、頭を抱え込んでしまいました。名前を覚えられていないことを、深刻にとらえてしまったようです。そんな姿を見て、個人差があるということがどういうことなのか、理解することが出来た気がします。改めて、相手のことをよく理解して、相手のペースに合わせることがどれだけ大切なのかを知りました。

今までの交流活動を通して感じたことを生かして、これからは、もっと意味のある交流活動が出来たら良いなと思います。